

第2回 石川中央都市圏地域公共交通協議会 議事概要

【概要】

日時：令和4年8月5日（金） 14時00分～15時15分
場所：金沢歌劇座 大集会室

【次第】

1 開 会

2 議 事 等

（1）地域公共交通計画の基本的な考え方

…資料1

（2）鉄道線の持続的運行に向けて【北陸鉄道】

…資料2

3 閉 会

【会議の様子】



【議 事 記 録】

1. 開 会

挨拶（会長）

昨日の災害は非常に大きなものであった。私が在籍している公立小松大学周辺でも大きな影響が出たところである。災害の時に地域の公共交通が色々な形で影響を受けるのは仕方がない面もあるが、何らかの代替となる仕組みを構築できると、市民生活にも影響が少なくなるのではないかと思う。今回、地域公共交通計画の策定にあたり、その点も取り込むことが出来れば良いと考えている。

さて、今日の協議会では、前回意見を頂いたことに対して、事務局で検討頂いた内容を説明するので、ご意見頂ければ幸いである。

2. 議事等

（１）地域公共交通計画の基本的な考え方 （説明：事務局）

（２）鉄道線の持続的運行に向けて【北陸鉄道】（説明：北陸鉄道株式会社）

（会長）

私もかつて学生時代に鉄道工学について学んだ経験があり、日々の保線は目に見えない経費であるが、とても重要な経費であり、おろそかにすると事故が起きる。バスは上下でいう「下」を公に任せているが、鉄道の場合は上下両方を北陸鉄道が担っているため負担が大きい。

（A委員）

上下分離の話の中で伺いたいのが、交通結節点を整備していくことが重要であるという認識の中、施設のうち駅の整備については自治体が負担するものか。各駅の賑わいが減少しており、終着駅も含め魅力が少ない箇所もあるため、何かご意見あれば伺いたい。

（事務局）

駅施設についても上下分離の対象として、北陸鉄道の要望の中に含まれている。結節点の賑わいも重要であると考えられ、近隣学生と意見交換を行った際、石川線の活性化について意見を募ったところ、結節点となる駅において、快適に過ごせる空間があればという意見も出された。今後、様々な可能性を検討していく必要がある。

（B委員）

委員会に初めて出席したが、行政として、何らかの対応策が必要であると考えている。北陸鉄道に自助努力いただいている中、コロナ禍の状況においても必要な検討を進めていく必要がある。市民生活に影響を及ぼさないことが重要と考える。

（会長）

中央都市圏全体の公共交通について、今の利便性で良いのか、私達がさらに公共交通を利用する場合に足りない点は何か、といった点について意見を頂戴したい。

（C委員）

赤字補填よりも住民福祉の観点から、鉄道が廃止した場合に取り残される住民の事を第一に考えていただきたい。

上下分離について、上と下の境界を明確にしていきたい。例えば、車両整備は下の部分となるのか、それは誰が整備するのか、また事故が起きた場合の責任の所在も明確にする必要がある。

(D委員)

下の部分は線路や電気設備、車両の維持管理などのことであるが、下の部分を行政に任せ、運転士の雇用、駅務の運営、運行計画・管理など、運行に関わることについては、当社が運営に専念させていきたい。

(事務局)

今ほど北陸鉄道から要望があったが、全国的に上下分離の境界は様々である。その上で、事故が起きた時の責任の所在も含め、様々なパターンから精査していく必要がある。上下分離の是非を含め、何がベストであるか検討していきたい。

(E委員)

電車もバスも利用する機会が少ない。車の方がどうしても便利である。昔はバスなどを利用し金沢まで移動していたが、今は全く使わないため、申し訳ないが意見を申し上げることが難しい。

(F委員)

野々市市は町自体がコンパクトであるが、車は便利であり公共交通はあまり利用しない。いずれバスや電車の公共交通の利用に頼らざるを得ないと考えている。赤字で公共交通が廃止になると市民生活に影響が出て、一番困るのは中学生、高校生や高齢者であり、自治体が補填してでも何とか事業を継続していただきたい。

(会長)

計画運休すると、普段車利用の方は困らないが、普段鉄道利用の方は車に転換することとなり渋滞する。同様に北陸鉄道線が廃線になると、車に転換し渋滞することとなる。現在の大量輸送機関である鉄道線が廃止することの影響は大きい。

(G委員)

個人的には車利用が多いが、地域にとって公共交通が安全安心に機能することが重要である。費用負担については色々なやり方があると思うが、必要な施設を継続的に運営していただきたい。

(H委員)

日頃は私も主に車利用であるが、たまに公共交通を利用し、まちなかへ移動する。地域公共交通の基本的な考え方で、「いしてつ愛あーるクラブ」や「お帰り乗車券」などの施策はとても良いアイデアである一方、必要な人にこういった施策の情報が届いているのか、周知や利用の実態が不明であり、ターゲットにしっかりと情報提供を行う必要がある。ネット社会のなかで、情報をスルーしてしまう事もあるため、お帰り乗車券のチラシを配布する等してはどうか。必要な方に必要な情報を届ける必要がある。

(事務局)

お帰り乗車券については、気づいていただけるようにポスター等を掲示しているが、気づかない方にどのように周知するのか、デジタルだけではなくチラシを活用する等、情報提供を行っていききたい。

(C委員)

上下分離について、自治体が「下」を預かることになるとう経常的に経費がかかることになる。また、自治体が第三セクターとして管理することになると住民の声が当局へダイレクトに届くことになる。利用者が増えない以上赤字が減少する事は考えられない。これから人口が減っていくことになると、上下分離の下としての公的負担が段々大きくなるのではないか。5年、10年経ったときにそのような問題が顕在化しないか。

さらにもう一つの視点で、いかに利用者を増やしていくか、もっと積極的な利用者増加の方法がないか。もう少し前向きな話になれば良いと思う。

(会長)

利用促進の話には地域公共交通の基本的な考え方に記載してあるため、今後具体的に示していく必要がある。

(事務局)

公共の負担が増えていくことは考えていかなければならないと関係市町間で認識を共有している。最も持続可能なあり方を議論していく必要がある。

利用者を確保する取組についても、高齢者が増えていく中で、金沢市では公共交通の利用を補助する仕組みなどもあるため、暗い話題のみにならないよう検討していきたい。

3. 閉会

—閉

会—